

令和4年度 自己評価のまとめ

A:実践が進み、着実に成果を上げている。
B:実践に努め、徐々に成果を上げている。

C:実践に努めている。
D:努力を要する。

基準値=2.5

・赤字は昨年度よりも低下した部分
・青字は昨年度よりも改善された部分

領域	教育目標・学校運営	評価						取組方法・改善 方策について
		A	B	C	D	平均点	昨年度	
1	教育目標は、学校や生徒の実態、地域等の要望を踏まえている。	1	12	0	0	3.1	3.1	・BYOD機器の導入・栗山と福祉・女子硬式野球同好会の取り組み等地域の要望や学校改善を踏まえている。
2	教育目標の達成に向けた校内体制は適切に組織されている。	0	12	1	0	2.9	3.1	・分掌の部長が全員入れ替わったが、ある程度の目標が達成できた。 ・令和の新しい学校教育を踏まえた改善が必要である。
3	教職員間、教職員と管理職間の対話が推進され、協働意識が形成されている。	2	10	1	0	3.1	3.1	面談だけでなく、対話や情報共有が常に行われ、学校全体で取り組む姿勢が現れている。 ・日常から対話、連携ができています。
領域	教育課程・学習指導(教育課程の状況)	A	B	C	D	平均点	平均点	
4	教育課程は生徒の進路志望の実現に相応しいものである。	0	11	2	0	2.8	3.0	・目標を達成するためにはICT機器を使った効率化が必要である。(スタサブ・採点システムの研修と導入)
5	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の改善のための取組が推進されている。	1	10	2	0	2.9	2.8	研修の参加呼びかけ等で改善が図られている。
6	生徒の実態を踏まえた教材研究や授業方法の工夫・改善が図られている。	2	10	0	1	3.0	2.9	ICT機器の導入等により、主体的・対話的で深い学びの実践が図られている。 ・ICT機器の運用が追いついていない。
7	基礎学力の定着や自主的に学習する態度の育成が図られている。	0	10	3	0	2.8	2.6	・朝学習の取り組み等が改善されている。
領域	進路指導	A	B	C	D	平均点	平均点	
8	進路学習や講習・模試の設定等の取組は生徒の進路目標達成を十分支援するものである。	0	12	1	0	2.9	2.9	・大学進学者は例年以上に増加しているが、国公立大学に挑戦する生徒の実力養成が急務である。
9	勤労観や職業観等、生徒が主体的に進路選択の能力・態度の育成に向けた指導が行われている。	0	11	2	0	2.8	2.8	・栗山と福祉の導入により、改善を図るとともに生徒の自己肯定感の向上により、目標が達成できる。
10	保護者に対し、3年間を見通した進路指導計画を明確に説明している。	0	10	3	0	2.8	2.6	
11	保護者に対し、生徒の進路決定など進路指導に関する情報提供は十分に行っている。	0	11	2	0	2.8	2.9	・保護者とは大きなトラブルもなく、指導はできている。保護者との連携は良かったと思う。
領域	生徒指導	A	B	C	D	平均点	平均点	
12	校内組織の連携が図られ、学校全体で生徒指導に取り組むことができている。	0	6	6	1	2.4	2.4	・統一されていない点の改善が必要 ・令和の学校教育に合わせた改定が必要
13	保護者や地域社会、関係機関等との連携・協力が図られている。	0	9	4	0	2.7	2.8	・改善を急ぎすぎた感は否めないが、概ね学校の方向性は示せた。
14	規範意識の向上に努め、社会の一員としての自覚を促す指導が実施されている。	0	8	5	0	2.6	2.9	・生徒の自己肯定感の育成と生徒会活動が改善に必要である。
15	学校行事や生徒会・HR活動等を通して生徒の豊かな心の育成が図られている。	1	12	0	0	3.1	3.0	
16	教育相談体制を整備し、相談活動が積極的に行われている。	2	11	0	0	3.2	3.3	・教育相談週間以外にも生徒への声かけを行った。
17	いじめの未然防止や発生時の対応は適切に行われている。	1	11	1	0	3.0	3.0	

領域	健康・安全指導	A	B	C	D	平均点	平均点	
18	家庭や地域の保健・医療機関等との連携が行われている。	1	12	0	0	3.1	3.1	・コロナ感染時の早急な対応やマニュアルに沿った行動ができています。
19	疾病予防等、生徒の自己健康管理能力向上のための取組がされている。	2	10	1	0	3.1	2.9	・保健だよりによる周知ができています。 ・コロナ対策は良くできています。
20	校内外の事件・事故や災害等に対する危機管理体制は適切に整備されている。	0	12	1	0	2.9	2.8	
21	教職員・生徒の安全対応能力向上を図る取組がされている。	0	12	1	0	2.9	2.9	
22	校舎・校地の環境は適切に維持されている。	0	13	0	0	3.0	3.2	
領域	特別支援教育	A	B	C	D	平均点	平均点	
23	特別支援教育委員会が機能し、各学年等との連携が図られている。	3	10	0	0	3.2	3.1	・担任や他の教職員との連携はできています。
24	生徒の実態把握が行われ、支援を必要とする生徒に、具体的な支援活動がされている。	2	10	1	0	3.1	3.1	生徒の実態にあわせ各教職員で連携をとり、支援されている。

◆ 校長が掲げた重点ポイントについての評価

(基準値=2.5)

	重点ポイント	A	B	C	D	平均点	平均点	
1	信頼され選ばれる学校づくり (学校便りや学校ホームページ等の広報活動の充実)	0	12	1	0	2.9	3.3	・HPの更新は適宜図られていないため、積極的な情報発信が今後必要となる。
2	組織運営 (学校経営に関する適切な情報の提供と面談等による指導、アクションプラン:働き方改革の推進)	0	13	0	0	3.0	3.3	・教職員の意識の向上は図られたが、働き方改革コアチーム等による大きな改善は図られていなかった。
3	教職員の資質向上 (管理職からの日常的かつ適切な指導の実施と情報提供)	0	13	0	0	3.0	3.3	・ZOOMによる研修は増えたが、教職員定数減などによる多忙感は改善されていないため、資質向上には至っていない。
4	学習指導 (シラバスを基本とした指導・評価の意識化、授業評価等によるシラバスの見直しと改善)	0	12	1	0	2.9	3.0	・シラバス作成や教育課程の改善等が必要である。テスト実施の可否を検討する時期になっていると思う。
5	生徒指導 (生徒会活動、就業体験、ボランティア活動等、生徒主体の活動の活性化)	0	12	1	0	2.9	3.3	・生徒会活動は生徒会総務を中心に効果的に運営されている。今後は学校目標に沿った生徒の主体的な活動が必要になる。
6	進路指導 (3年間を見通した組織的で計画的な進路指導の実施)	0	12	1	0	2.9	3.0	・組織的で生徒の特性に応じた指導が必要になっている。
7	健康・安全指導 (SCとの情報共有や教育相談週間における面談等による生徒理解の深化)	2	11	0	0	3.2	3.3	・富家教授からの講話が勉強になった。 ・個々の生徒の状況共有ができています。

【自由記述欄】

・ICT機器の活用やGIGASCHOOLを推進する必要がある。
 ・他学年、他分掌の動きが見えにくく、共通理解が図りにくい点は継続的な課題だと思います。(自分の反省でもありますが)
 ・学校評価アンケートの生徒回答が少ないので、回収方法の工夫が必要。
 ・1学年から新学習指導要領に伴う新基準での指導となっており、定期考査の実施も大切だが、教科内の単元テストでも十分にできると感じる。
 生徒が日常的に学習に取り組む環境づくりの一因として、テスト廃止の検討も価値があると思う。(夕張高校は既に導入済み)